

別紙様式第1号

(注) 借入希望者の経営形態により作成するが、次の内容に準じていること。

平成 年 月 日

(金融機関名) 殿

住所

氏名 (法人名、代表者名)

印

畜産経営生産性向上計画

借入希望資金 家畜飼料特別支援資金

1 借入希望者の概要

住所	〒	年齢	年生 (歳) (法人設立 年)
----	---	----	--------------------

(注) 法人の場合は、年齢の欄に法人設立年を記入すること。

営農類型	1 肉用牛・肥育	2 肉用牛・繁殖
	3 肉用牛・一貫	4 酪農
	5 養豚	6 養鶏・採卵鶏
	7 養鶏・ブロイラー	8 その他 ()

(注) 該当する営農類型に○ (複合経営の場合は全ての部門に○) をすること。

家畜の飼養状況及び借入限度額

畜種等	初回計画作成時飼養実績① (頭、100羽)	1頭(100羽)当たり 限度額 ② (千円)	初回計画作成時借入限度額 ③=①×② (千円)	現在飼養実績 ④ (頭、100羽)	現在飼養実績ベース借入限度額 ⑤=②×④ (千円)
肥育牛					
乳用牛					
繁殖用雌牛					
豚					
鶏					
計					

(注) 飼養実績は計画作成時点の頭数又は羽数を記入すること。ただし、養鶏・ブロイラーにあつては常時飼養羽数を記入すること。

本資金の借入回数 () 回目

今回借入限度額 () 千円

(注) 今回借入限度額は、家畜の飼養状況及び借入限度額表中の③もしくは⑤のいずれか低い額から、過去の借入額計を引いた額とする。

過去の借入状況

(単位：千円)

	借入日	借入額	最終償還期限
第1回			
第2回			
第3回			
計			

2 経営収支計画

別紙様式第1号の別紙1のとおり

3 生産性向上対策実施計画

別紙様式第1号の別紙2のとおり

(注) 2回目以降の借入の場合で、内容に変更のない場合は省略可能

4 借入計画

(1) 借入計画額

ア 今回借入計画額 千円

イ 融資機関名

ウ 償還予定年月等

(単位：年月日、千円)

	1回目	2回目	3回目	4回目	5回目
約定日					
約定元金					
約定利息					

	6回目	7回目	8回目	9回目	10回目
約定日					
約定元金					
約定利息					

(2) 資金使途内訳 (資金使途は飼料費のみ)

(単位：千円)

内 訳	金額	支払予定日	飼料購入予定先	備考
計				

5 償還計画

別紙様式第1号の別紙3のとおり

2 経営収支計画 (個人)

(単位：千円)

	前年実績 (年)	借入年 計画 (年)	翌年以降の計画					算出基礎
			年	年	年	年	年	
飼養規模 (頭、羽)								
農業収入								
畜産部門								
その他部門								
計 (1)								
農業支出								
畜産部門								
家畜購入費								
飼料購入費								
雇用労働費								
その他経費								
小計								
その他部門の支出								
計 (2)								
農業収支								
計 (3) = (1) - (2)								
農外収入								
計 (4)								
農外支出								
計 (5)								
農家所得								
計 (6) = (3) + (4) - (5)								
租税公課諸負担								
計 (7)								
出稼ぎ、被贈、年金等の所得								
計 (8)								
うち国の奨励金								
可処分所得								
計 (9) = (6) - (7) + (8)								
家計費								
計 (10)								
資産処分・預貯金引出額								
計 (11)								
償還財源								
計 (12) = (9) - (10) + (11)								

(注) 1 現金収支に係る金額のみを次により記入すること。

①「家畜購入費」、「飼料購入費」は、当該年における現金支出額とすること。

②「その他経費の支出」は、減価償却費、家族労働費を除くこと。

2 前年実績の内容を証する書類等を添付すること。

別紙様式第1号の別紙1—2

2 経営収支計画 (法人)

(単位：千円)

	前年度 実績 (年)	借入年度 計画 (年)	翌年度以降の計画					算出基礎
			年	年	年	年	(償還最終年) 年	
飼養規模 (頭、羽)								
売 畜産部門								
上 その他部門								
高 計 (1)								
売 期首棚卸高 (2)								
当期製造原価 (3)								
上 うち家畜購入費								
うち飼料購入費								
うち雇用労働費								
うちその他支出								
原 うち減価償却費 (4)								
期中成畜振替額 (5)								
期末棚卸高 (6)								
価 計(7)=(2)+(3)-(5)-(6)								
売上利益 (8)=(1)-(7)								
販売費及び一般管理費 (9)								
事業利益 (10)=(8)-(9)								
事業外収入 (11)								
うち国の奨励金 (12)								
事業外経費 (13)=(10)+(11)-(12)								
経常利益 (13)=(10)+(11)-(12)								
資産処分・預貯金引出額 (14)								
償還財源 (15)=(13)+(14)								
修正償還財源 (12)=(9)-(10)+(11)								

(注) 1 法人決算書の根拠計算書より転記すること。(ただし、農業以外の部門収入がある場合は、農業部門と農業以外の部門を区分して記入すること)。

2 修正償還財源は、(1)-(8)+(4)-(9)+(11)-(12)+(14)で算出した額を記入すること。

3 前年度実績の内容を証する書類等を添付すること。

3 生産性向上対策実施計画

(1) 生産性向上の具体的目標

	項目	現状値	目標値 (年)	対現状値	備考
1					
2					
3					

(2) 生産性向上に向けた具体的な取組み

(生産性向上のための取組内容を、詳細に、具体的に記入して下さい)

別紙様式第1号の別紙3

借入金の状況及び償還計画

(単位：千円)

借入金の種類 (金融機関)	直 近 年 (度)末残 高 (年 月 末)	利率 (%)	当年 (度) 約定 償還 額	次年(度)以降償還計画						
				年	年	年	年	年	償還 最終 年	
長期										
短期										
計①										
償還財源②										
償還財源と償還元金との差額②-①										

(注) 1 償還財源欄は、2の経営収支計画のうち、個人の場合は(12)、法人の場合は(15)の額を記入すること。

2 借入金の種類を証する資料等を添付すること。

3 借入希望者の有する負債を漏れなく記載すること。

4 償還最終年は、今回の借入分の最終償還年(度)を記入すること。